

ワン・ピース・ボディに於ける

各種原型の比較研究

松村季三代・森嶋登貴子

緒 言

よいきもの（洋服）を作るためのオアの要素は布地である。布地の選択はデザイン感覚の半分を占めていると言ってよい。選ばれた布地によって種々のイメージが浮び、デザインが決定される。或はその逆にデザインが考え出されてから、それに適わしい布地を探し出す場合もある。何れにしても次の仕事は裁断である。どのようにしゃれた布地で良いデザインを考えたとしても、それを具体的に現わす裁断が悪ければ大変なマイナスになってしまう。きものというものが今後どんなに芸術的に造型化されて来ても、人間が着て生活するものであることに変わりがない以上、先ず着易いきものであることが必要である。まして日本の私達のきものは、パリのモードの最尖端ではなく、日常身につけるものが大半であるからには、先ず着易いきものを求めるのが当然と思う。フランスのオート・クチュールでは、トワール（綿布）を使って何遍も仮縫をしたり、モデル・カッティングといわれる布地を体に巻きつけながら、形をととのえて裁断して行く方法もある。ドレイプの多いカクテル・ドレスやイヴニング・ドレスの類いなら、型紙を操作する事が難しく、直接布地を扱いつつ、更に新しいアイデアを考え出すということはある。それには時間と、経費と、熟練と、加えるに高度な感覚が必要で、だからこそ何十万フランという高価なものも生れるのであろうが、洋装の歴史の浅い日本の洋裁界の現状では、やはり型紙式裁断が平易で安全、最も普遍的なやり方であると思う。私たちは自分が習得した方式をよいと思い、他の方法にさして関心を持ったことはなかった。幸い若い人達は一つの型紙に執着している訳ではなく、着てらくで、然も美しく見え

る原型とはどういうものであるか、一見大差ないように見える各種の原型にも長短があるだろうことに興味を持ち、比較研究に着手した。ここにいう原型とは婦人服に於けるワン・ピースボディのことで、何れの方法にしても之等の原型を土台としてデザインが加えられることはいうまでもない。

実 験 I

方 法

ハترون紙を使つて人台の寸法で、ワン・ピース・ボディを作り、写真をとる。紙を使用したのは布地よりなじみ難い故に却って判然としたシルウェットが現われるかと思つたためである。比較した原型のシステムは A, B, C, D の四種、実物実験も同じである。ダーツは仕上げのカーブ線を使わず、何れも直線のまま、各式による採寸法が異なるので、共通寸法は、

胸廻り 80c, 背丈 36c, W廻り 61c

の三カ所のみである。

実 験 II

方 法

実物大、キャラコ使用、身長に関係なく、1~5 (やせ型) 6~10 (中肉)
11~15 (肥満型)

の人にモデルをお願いした。前身頃のダーツのとり方はサイドとウエストで統一し、ダーツ及び肩、脇を縫い、モデルに着用、ウエストラインに巻いたインサイド・ベルトにウエスト線を止めつける。袖山の深さ、身頃袖ぐり寸法の^{1/4}に揃えた半袖を片方につけ、片側の袖ぐり縫代を裁ち落とし、アーム・ホールの形状も観察、仮縫後、補正の結果を記録する。A, B, C, Dの順は何時も不同で、誰にも何式と判別することは絶対出来ないようにした。

実 験 I

比較考察

人台写真

前面比較

- A 脇線上方で、やや体からとび出している。袖ぐりを深く感じる。
- B 肩巾より少し下った位置で、胸巾を広く見せ、そのくせ前身頃が後に引っぱられている感じ。バストのダーツ量少く偏平感を受ける。
- C 脇線上方で体から離れすぎている。バストのふくらみを低く感じる。
- D 全体にウエストで細まり、スマートに見える。合いすぎて生硬な感ないとも云えない。

側面及び背面比較

- A 袖ぐり下へ、くりすぎの気味。見た目は、らくそうだが、脇丈不足して袖がつれ、実際には手の上げ下げが窮屈になるはず。背面からも偏平感を受ける。
- B 前袖ぐりが浮いていてバスト、ダーツ量の不足を感じる。胸のふくらみなく、側面からの線も偏平、背面も脇線が上で、ややとび出している。
- C 袖ぐりの形状丸く真すぐにくれている。側面からもバストの位置やや低く見え、後、脇線の上方、体から離れすぎている。
- D 側面の胸の線きれいだが、後袖ぐりの上部、浮きが目立つ。このゆるみを全部とれば、腕の前回運動の防げとなるが。アーム・ホールは斜めにくれている。背部、肩巾広くていかり肩に見える。

以上、何れも紙を使用したため、欠点が誇張されたようである。写真を並べてみると、実際に見比べるより、はるかにそれぞれ違って見える。前身頃のダーツをA、Cがサイドとウエスト、B、Dがショルダーとウエストにもって来たのは、各式の原型を色々作ってみた上で各々の中の比較的美しく見えるものを選んだ結果であるが、これはやはり、何れかに統一した方がよかったと思う。

実 験 II

比較考察

オ 1 表

前後身頃の巾

才 1 表

部分 名称	前 身 頃				後 身 頃				肩 巾				肩 線				衿 ぐ り (前)			
	◎	○	広 い	狭 い	◎	○	広 い	狭 い	◎	○	広 い	狭 い	◎	○	上	下	◎	○	深 い	浅 い
A	6	3	9	0	13	0	0	2	4	10	10	1	13	1	1	1	6	4	1	8
B	7	1	6	2	12	0	0	3	8	6	7	0	11	1	0	4	8	5	2	5
C	10	1	5	0	8	2	5	2	9	5	6	0	12	2	0	3	2	5	2	11
D	9	4	3	3	8	4	6	1	7	5	8	0	11	3	3	1	9	5	5	1

〔註〕 ◎…良 好 補正なしの場合 数字は人数を示す
 ○…ほぼ良好 0.5C以下の補正を含む ○印の数は他の補正数を含む
 肩線上は 上りすぎ 才2表も同じ
 下は 下りすぎ

- A 前身頃の広すぎ，モデル1～10 までの人に最も多い。
- B 前の広すぎ多い。
- C 前後共広いものが多い。
- D 後身の広すぎ最も多い。前後共補正量は一番少い。

総じて◎と○の合計数は、何れも近い所で身巾のゆとりそのものは大差ないということになる。ただ前後身頃のつり合は非常に違う。

型紙はA，B，C式が前が広いのに反し，D式は後身が広がっている。

肩巾及び肩線

四式とも肩巾の補正量少く、何れも広いものが多いが、之は採寸者の責任と
 思う。肩線つまり肩落の傾斜は個人差があるから、仮縫が必要であるけれども
 この実験内では、ひどい直しは少かったようである。

ネックライン

各式とも後衿ぐりは補正なし。ネック・ポイント横の位置もBを除く三式に
 僅かの直し（ややくりすぎ）があっただけで良好。前衿ぐりはC式の半数が中
 心でつかえているもの多く、特に1～10 までのモデルに見られる。

才 2 表

アーム・ホール

オ 2 表

部分 名称	袖 ぐ り				脇 線				Wライン前				Wライン後				Wライン脇				
	良否	◎	○	深い	浅い	◎	○	長い	短い	◎	○	高い	低い	◎	○	高い	低い	◎	○	高い	低い
A		6	3	8	1	4	3	3	8	6	2	3	6	4	5	2	9	9	3	1	5
B		5	3	5	5	7	4	3	5	10	2	3	2	12	1	2	1	8	2	5	2
C		10	1	2	3	7	4	4	4	6	2	3	6	11	0	4	0	9	4	3	3
D		8	2	6	1	7	3	2	6	10	3	0	5	14	0	0	1	12	3	1	2

- A 全体に深すぎが多い。1/2人台写真でも製図でもそれを感じる。
- B 深すぎ，浅すぎ相半ばして深すぎはやせ型に浅すぎは肥満型のモデルに見られる。
- C 浅すぎが少し多いが，全体の補正量は少ない。
- D 深すぎが多い。D式は他の袖ぐりが比例割出しなのに反し，腕ぐり寸法を別に測るので，採寸の責任も考えられる。正確に測ればよいが，測り方が悪いと補正が多くなる点難しい。

脇 線

- A 短かすぎるもの多い。アーム・ホールの深すぎるものと大体一致する。
- B 補正少い。
- C 補正少い。
- D B, Cに次ぐ。

ウエスト・ラインの位置

各式とも背丈寸法は，後衿ぐり中心から同一モデルの寸法をとっているにもかかわらず，Wラインの位置に補正があるのはどういうことだろう。つまり体型のどこかが合わなくて無理が起る結果と思われる。前後脇ともAにウエストの下るもの多く，Cは前のみ下るもの多い。D補正少くB之に次ぐ。

オ 3 表

バストのダーツ量

- A やせ型から中肉のモデルにダーツ量多すぎのもの目立つ。

オ 3 表

部分 名称	バストダーツ量				袖 山 (巾)				着 心 地			
	◎	○	多い	少い	◎	○	広い	狭い	◎	○	△	×
A	7	1	8	0	6	6	9	0	6	5	4	0
B	7	2	5	3	5	8	9	1	4	5	5	1
C	1	4	14	0	10	1	3	2	1	7	5	2
D	12	2	0	3	11	4	4	0	9	6	0	0

〔註〕

着心地の欄

◎…着易い

○…普通

△…やや着難い

×…着難い

B やせ型の人に多すぎのもの、肥満体に不足。

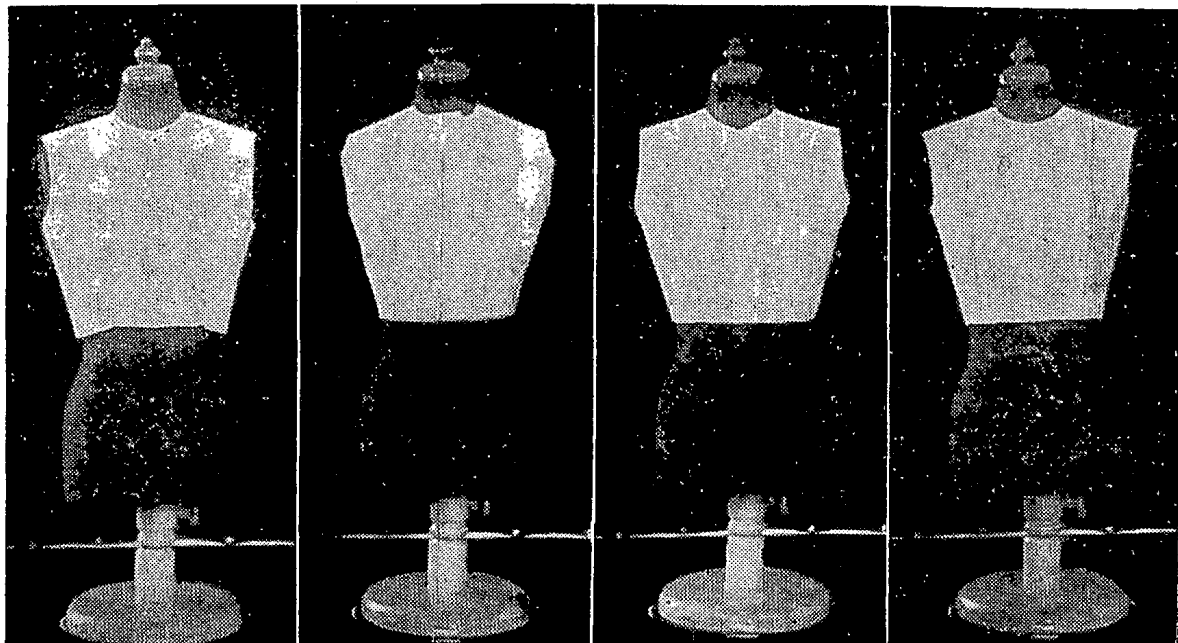
C 全体にダーツ量多すぎるもの最も多い。

D ダーツ量適当、やや不足のもの肥満体にみる。

身体の瘦肥に余り関係なく、バスのふくらみは個人差があるので‘胸のダーツ量を固定寸法で現わすことは妥当でない。又感覚的にダーツ量を増減することも初歩の人には難しいだろう。その点D式のダーツ量の出し方は合理的であるが、ダーツ量を算出するための採寸がやや複雑な所に又難がある。

1/2人台写真

前 面



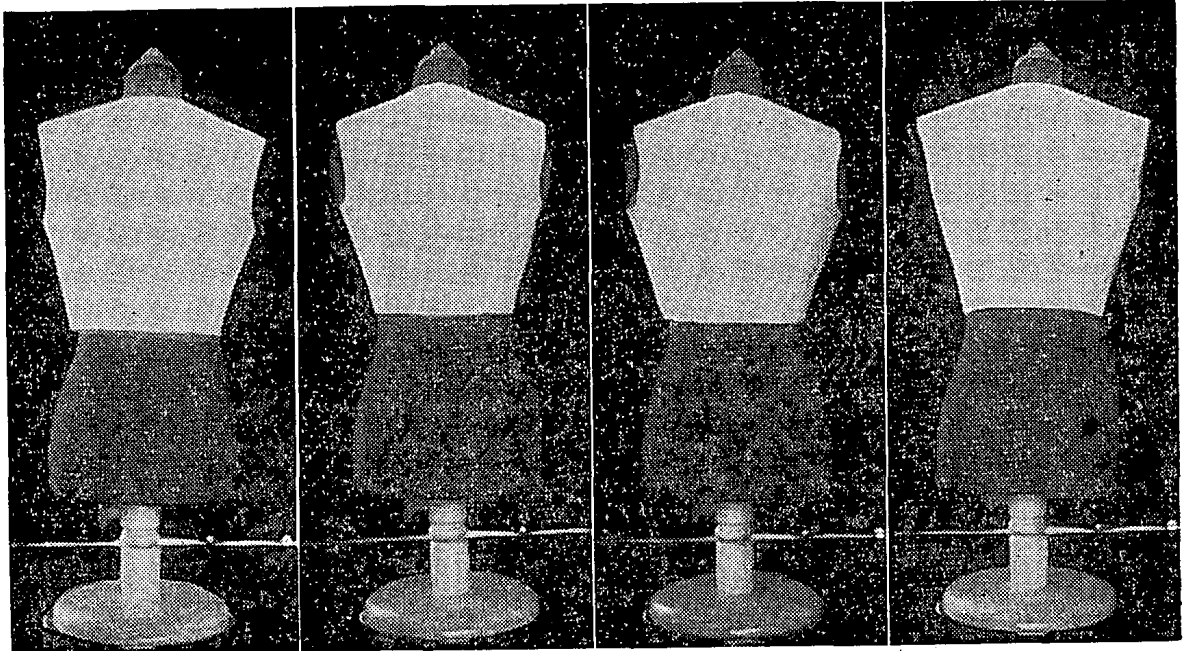
A

B

C

D

背 面



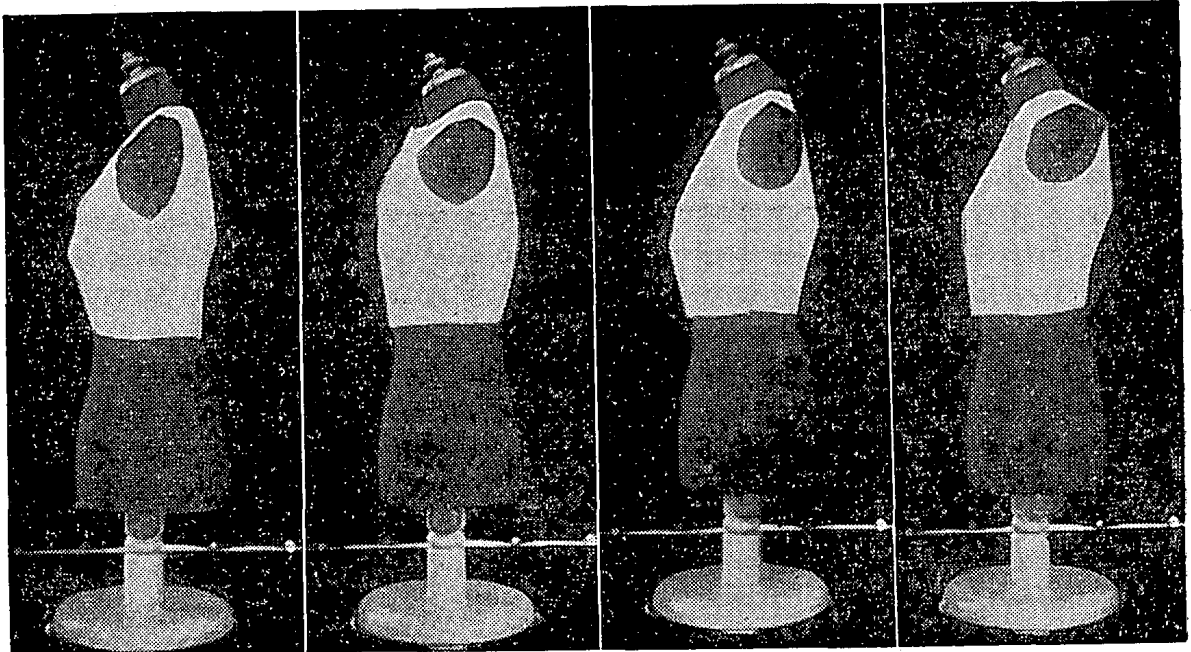
A

B

C

D

側 面



A

B

C

D

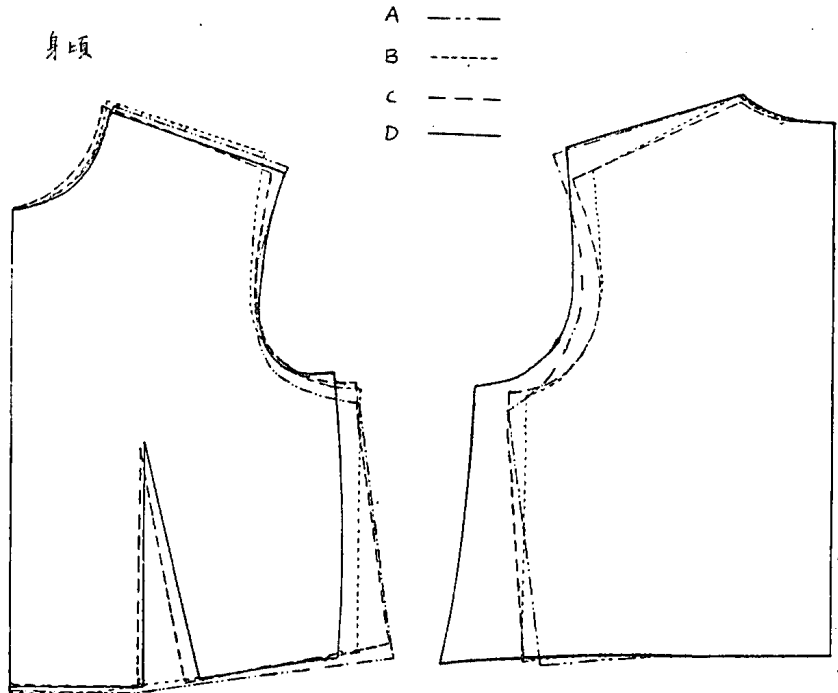
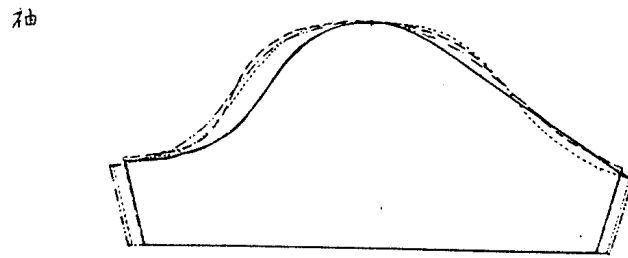
袖 山

A 前袖山の巾広すぎのもの全体に多い。

- B 前，後共，袖山の巾広すぎのものの多い。補正量は少い。
- C 前広すぎるもの多く，狭いものも少しある。
- D 前後に広いものがあるが補正量は少い。

四種の袖を重ねた

図をみると大分違うが、之は身頃の袖ぐりが違うので当然であろう。身頃の巾のゆとりが少いものは袖山の巾に運動量を求めていると考えられる。それぞれに身頃に合った袖山を持っているということである。



着心地

最初に前中心を合せ，Wラインをインサイド・ベルトに止めつけてから，モデルに着用感を聞いて

みた。私達は見た目によく合っていると思っても，誘導的な言葉は特につつしみ，全体に何となく窮屈な場合，体のどこかが，つかえて引っぱられている等の理由により色々な答が出された。各式を通じて中肉から肥満体の人に着難いという答が多かったのは，つまり，やせ型の人ばかりが作り易いということだろうか。

要 約

着てらくなきものを作る要点を二、三あげてみると

一、肩線が体に合っているか否か、肩線が身頃を吊しているのだから重要なポイントとなる。

一、アーム・ホールは深すぎないよう。浅すぎてつかえているのは論外だが、洋服を着なれない人に限つて深い袖ぐりを望むけれども、深い袖ぐりは袖がついた時、手の上げ下げが窮屈になる。

一、アーム・ホールのゆとりは、深さよりも、わたり（巾）に求められる。

又背巾に適当なゆるみを入れることは、らくなきものを作る原因となる。

一、婦人服の特徴といえるバストのふくらみが、体に合っていなければ着易いきものは生れない。

その他細かい点が重なり合い、着易いきものも着難いものも生じる訳で、要するにこれは単なる実験結果の報告であつて、決して確定的なことは言えないのであるが、着心地の欄に於ける $A^{11\frac{1}{15}}$, $B^{\frac{9}{15}}$, $C^{\frac{8}{15}}$, $D^{15\frac{1}{15}}$ が示すように、何れも半数以上は、着易い又は普通と答えているのであるから、一つの方法に徹底し、その長短をわきまえたら、何れを可、何れを否とも言い難いのではないかと思う。せめてこのモデル数を2倍から3倍位にして比較すれば、或は又新しくはっきりした数字が現われるかも知れない。実験結果が似たりよつたりであつたとすると、この研究は徒勞に終つたものとも思われるけれど、型紙の違いと同様、出来上つたシルウェットが非常に違ふということは、やはり発見であつた。これにデザインの個性が入れば、自ずと異つた雰囲気のきものが出来上ると考えられる。

終りに実験の当初、一緒に着手しながら病氣のため中断された中西麗子氏、60着の型紙の作製や、その他勞力の多かつた、下方妙子、長谷川歌子、民谷セツ子の諸嬢、又快よくモデルを引き受けて下さつた方々に感謝いたします。